



春
四月
〜故郷で育つ〜



酒の出来を褒めると、「この酒は私だけで造ったんじゃない。この地域の風土が育てたんだ」と言った酒職人がいました。

酒への愛情が郷土愛と重なり、その酒を無性に飲んでみたくまりました。

あるとき、子どもたちをジョークで笑わせようとした先生がいました。
「握手をすると人は幸せになれるんだよ」
「なぜ握手したら幸せなの」
「握手すると、した人と仲良くなれるのよ。たくさん友達ができる人が幸せな人だよ」
「握手するとき、友達の手を強く握ると友達の手の手しわと自分の手のしわが合うでしょう。だから、しあわせになるのよ」

「学校で、友達や先生方といっぱい握手して友達をつくらうね」

ほのぼのとした光景です。
「学校に行くのが大好き」
そんな子どもの声が聞こえてくるようです。

子どもは地域の宝です。地域は子どもで結ばれるからです。



「祖母力」「祖父力」という言葉があります。

お年寄りが子育ての親世代を支えたり、子どもたちに知恵を授けたりすることです。
教師の経験を生かして、孫や近所の子どもと一緒に公園で遊んだり、逆上がりの要領を教えたりしているお年寄りがいました。

お年寄りが地域の子育てにごく自然に関わる、そんな風景が見られるようになれば、子どもたちも幸せだろうと思えます。

良い子に育てるには、よい親、良い地域であることが不可欠です。

子は親の鏡とも言います。子は地域の鏡とも言えそうです。



四月。真新しい制服に身を包み、友だちと仲良く登校する子どもたちの姿があります。
近所のお父さんから、こんなセリフを聞いてみたいものです。

「この子はオレだけで育てたんじゃない。地域が育てたんだ」

指宿市長 豊留悦男